

カンタキ春日部通信

2025年8月号

ご利用中のお客様の事例をご紹介します。

全国でも約1000カ所しかない「カンタキ」ですが、在宅生活の「最後の砦」として地域の皆様の「自分らしく自宅で過ごしたい」気持ちに寄り添いながら介護と看護で支えていくことができるのが「カンタキ」です。可能性が沢山あるこのサービスの最大の使命は、ご利用される皆様の中にある「想い」を尊重し、その想いを支えることです。そのために多くの機能を持ち合わせたサービスと言えます。わたしたちの引き出しの中にある多くの機能をご利用される方に応じて取り出し、心を込めて提供させていただきます。

今回は、がんの末期でせん妄をきっかけにご利用を開始されたお客様の事例をご紹介します。

事例

がん末期。独居。80代男性

癌の末期。ある時からせん妄様症状が出現。自宅で大声。転倒。別居の主介護者の娘様の不安・介護量（実家に泊まり込み）が増大。大好きなお父さんを自宅で看たい・・・でも、定年まであと少しのお仕事も続けたい・・・。
目の前で変わっていくお父さんを見るのはつらい・・・。
でもそばに居てあげたい。後悔ないように看取りたい・・・。気持ちが揺れ動く日々。
訪問診療の主治医よりカンタキの提案を受けご利用を検討された。



**まずは娘さんがしっかり休むことが必要。
「連泊」でせん妄のコントロールをしよう！！**

POINT!!

CM・NS・介護士が
1チームで動けること！

サービス調整

「連泊」の中で
せん妄のコントロール
（服薬調整）

体調管理

（出血傾向・尿閉のため
膀胱留置カテーテル挿入）
（排便コントロール）
（医師との連携）
（緩和ケア）

生活の質向上

個別ケア
（保清・排泄ケア）
家庭的な雰囲気作り
（個室でも一人にしない！）

家族支援

ご家族のレスパイト
今後の方針の確認と
精神的サポート

ご利用後の様子

自宅で看取りたい気持ちは強いけれど、
不安は大きい。

日々、体調の変化があるたびに不安になる。方針が揺らぐ・・・。
このような気持ちの揺れがある中、現在も連泊を利用され、毎日ご家族がお父さんの好物を持参されて面会に来られています。

「やっぱり今すぐ自宅に戻してあげたい！」
「自宅だと思っていたけどやはり不安・・・。」
今後もご本人・ご家族がどのような道を進むのかは分かりません。わたしたちにできることは・・・

想いを尊重し、その想いにサービスを
臨機応変・柔軟に変更して対応して
いくことです。それは、ご本人やご家族に
とって最大の安心感に
つながっていくと思っています。

看護小規模多機能ふくしのまち春日部



048-797-9825

〒 344-0117

春日部市金崎 9 8 2 - 1

担当：小林（所長） 吉川（管理者） 水野（CM） 金田（部門担当）

